

寄稿

世界の樹木シリーズ (カンボジア)

樹木医 有田和實

世界の樹木第4回目はカンボジアの樹木。東南アジアの樹木の種類は、他の大陸と比べ非常に豊富である。2007年にタイ国へ樹木医二樹会で訪問したサクヤイ森林公園のチーク巨木と同様、カンボジアにもタイによく似た樹木が多く見られました。

今回は、シエムリアップを中心に、アンコールワット・アンコールトム遺跡周辺の樹木を視察してきました。永い間ジャングルに眠っていた遺跡とともに、樹木もその間に、遺跡を飲み込むほどに成長してきました。成長して樹木の根茎が遺跡を巻き込んでいる為に、根茎を排除するとかえって遺跡の崩壊に繋がるのではないかと考えられます。石造遺跡の隙間に根を侵入させて成長し、かえってバランスを取っている状態のものも見受けられました。

遺跡に抱きついている樹木の多くは、クワ科 (Ficus の仲間) であり、成長もはやく、また、鳥の糞からところ構わず発芽して増えています。インドボダイジュは神聖な樹木として崇められ保護されているので、遺跡の上部まで鳥が種子を運んで発芽しています。



(Cehheuteal の巨木：アンコールトム・バイヨン入口。幹を削り、樹脂を燃やして明かりとりをしている。)



(タマリンドの巨木：アンコールワット入口)



(タマリンドの花)

タマリンドは、東南アジアの地域では極普通に見られるマメ科の樹木で、街路樹や果樹として植栽されています。果実は干し柿のようで甘酸っぱく美味しいです。花はマメの花で、赤と黄色の花弁が美しいです。

遺跡以外にも巨木が多く、東南アジアからアフリカあたりまで植栽されているタマリンドは、緑化樹としてばかりでなく、実用樹 (食料 = 果樹) として各地で栽培されています。タイの甘酸っぱいスープには、

この果実の酸味がかなり入っているそうです。



(気根を出しながら成長する Ficus の仲間)

Ficus の仲間には、いろんな形で成長し、他の樹木に絡み付いたり、石造物の僅かな隙間に根を下ろしたりして成長しています。1本の木が、気根を出しながら森を作ったり、上写真の様にどれが主幹か判らないような樹木になることもあります。

### レインボーツリー

ハワイの公園やシンガポールの街路樹でよく見掛ける(テレビのコマーシャルでお馴染み この木なんの木)樹木で、日本のネムノキに似た花をつけます。十分な木陰を作るので、売店や駐車場になっています。



(像のテラス前広場レインボーツリー)

フランス統治時代に造られた市街地は、どこに行ってもフランスの香りを残してい

る。ベトナム(ホーチミン=サイゴン)の街路樹もアフリカンマホガニーの巨木で囲まれていた。マダガスカルの首都アンタナナリボの湖畔はジャカランダの花に囲まれている。シエムリアップの街はチューティアル(CEHHEUTEAL)の並木が残っていて、ここがかつてはフランスの街だったことを彷彿させる。



(チューティアルの並木)

### 子実体参考写真 <ベッコウタケ>



・写真提供 有田和實樹木医